藤原宮
大極殿院の調査

飛鳥藤原第182次調査　現地説明会資料

（独）国立文化財機構奈良文化財研究所　都城発掘調査部

藤原宮大極殿院
発掘調査区全景（南から）

写真１　南北溝２・３と古墳周溝（北西から）

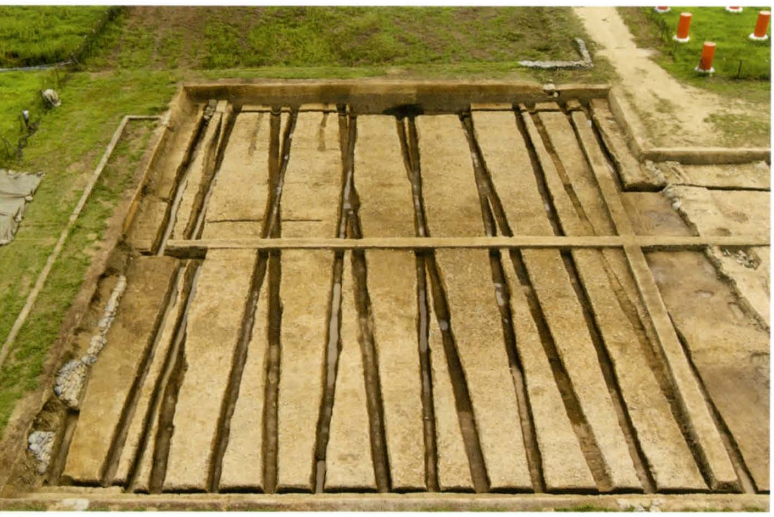


写真２　礫敷広場の検出状況（北から）

写真３　建物１の柱穴と柱根（西から）

１．はじめに

大極殿院は、藤原宮の中心部に位置し、回廊で囲まれた東西約 120 m、南北約 170 mの区画です。回廊内側（内庭）の中央には、儀式の際に天皇が出御する大極殿があり、その南側には南門が開いています。今回の調査地は、大極殿院内庭の東南部にあたります。

２．調査成果

１）藤原宮期の遺構

大極殿院内庭　東区と西区の東半分で大極殿院内庭の礫敷を検出しました（写真２）。黄褐色砂質土を積み、運河は丁寧に埋め立てたうえで、拳大の礫を敷いています。礫敷の厚さは３～5cm です。調査区内では約 0.3 mの高低差があり、南側が高いことがわかりました。

２）藤原宮造営期の遺構

運　河　西区の中央部を南北に貫く大溝で、藤原宮造営時に資材を運搬した運河です。南北溝２の東側でその西肩を検出しました。幅約７m、深さは 0.7 m以上です。この運河は朝堂院地区の調査で確認してきたほか、大極殿の北方でも見つかっています。

南北溝１　東区の南端と北端で確認した南北方向の素掘り溝。幅 2.7 m、深さ 1.4 mで、さらに北へ延びることが判明しました。大極殿院南門の造営に際し、東へと運河を迂回させた溝とみられます。

南北溝２　西区の中央部で検出した南北方向の素掘り溝。最大幅は 2.0 m、深さ 0.7 m以上で、北へと延びています。先行朱雀大路の東側溝にあたります。

南北溝３　南北溝２の西で検出した南北方向の素掘り溝で、幅約 2.5 mで北へ延びています。

東西溝１　東区の南端で検出した東西方向の素掘り溝で、幅 2.0 m、深さ 0.7 m以上です。先行四条大路北側溝にあたる可能性があります。

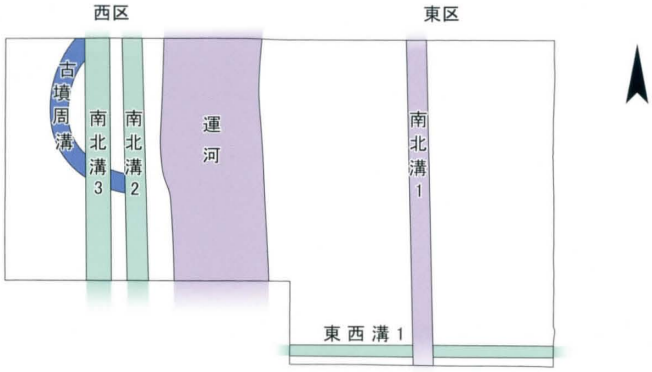
３）藤原宮廃絶後の遺構

建物１　西区西南部で東西に並ぶ柱穴を新たに３基検出しました。柱間は 2.1 m（7.0 尺）で、うち２基には柱根が残っています（写真３）。第 148 次調査で検出した奈良時代の掘立柱建物の北側柱列にあたり、桁行６間・梁行２間の東西棟建物であることが確定しました。

建物２　西区西北部で検出した掘立柱建物です。東西、南北ともに２間以上で、柱間は 2.1 m（7.0 尺）です。

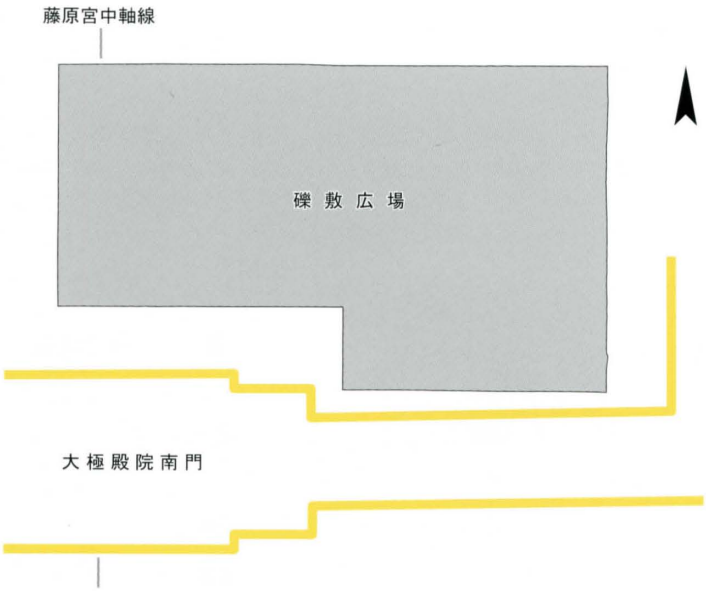
建物３　西区中央の北寄りで検出した平安時代の掘立柱建物。東西２間で西側に庇が付き、南北は３間以上で北側へ延びています。

柱　列　西区の東部で検出した南北方向の柱列で、さらに北へ延びます。柱間は 2.1 m（7.0 尺）です。

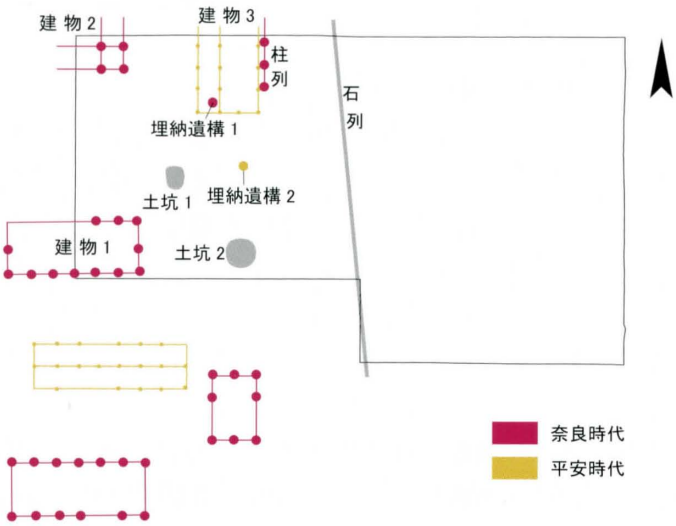


古墳時代～藤原宮造営期

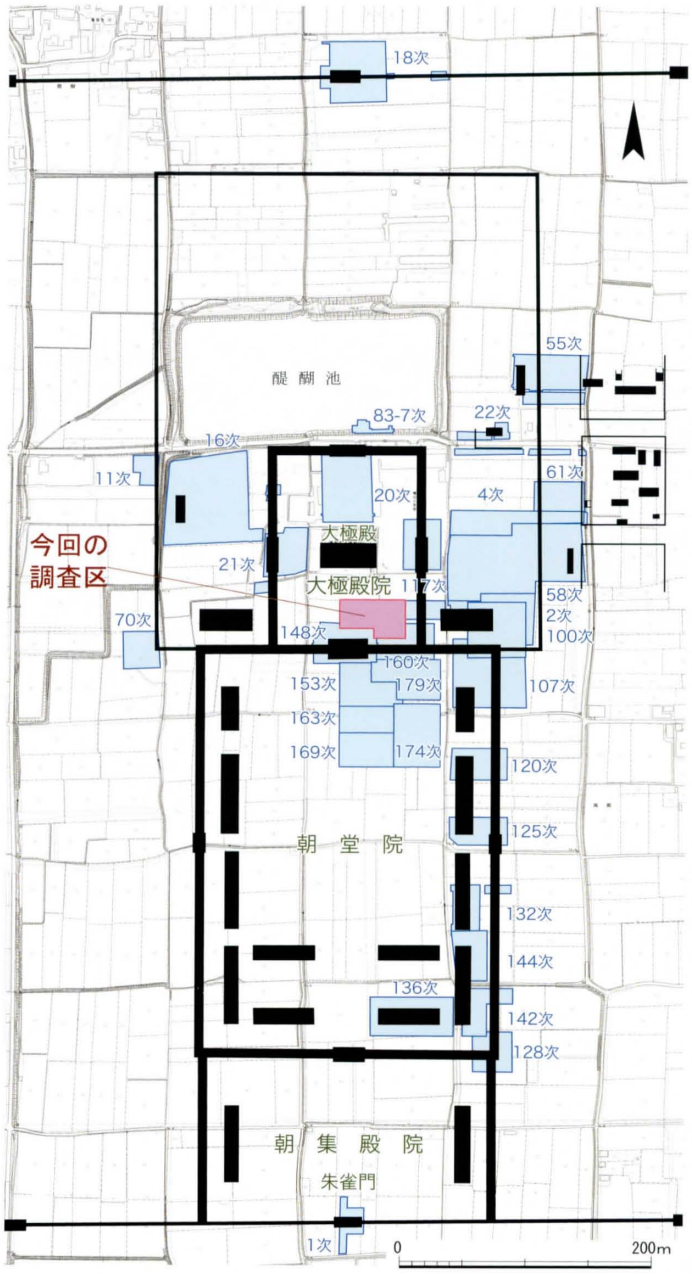
写真４　藤原宮中枢部【大極殿から朱雀大路を望む】（北から）



藤原宮期



藤原宮廃絶後



調査区位置図

埋納遺構１　西区で検出した土坑で、和同開珎５枚を納めた奈良時代の須恵器杯を正位で埋納していました。

埋納遺構２　西区の中央部で検出した浅い土坑で、平安時代の土師器小皿を重ねて納め、土師器土釜で覆っていました。

石　列　西区で検出した、東に落ちる段差の法面に石を並べたものです。高さは0.5ｍで、北へと延びています。

４）古墳時代の遺構

古墳周溝　西区の西寄りで検出した弧状の溝です（写真１）。溝の埋土からは埴輪・須恵器などが出土しました（写真５）。古墳は、直径約12～15ｍの円墳とみられますが、東半分は南北溝３や南北溝２、運河によって壊されています。

３．出土遺物

今回の発掘調査では、大極殿院の所用瓦が多量に出土したほか、古墳時代から平安時代の土器が出土しています。埋納遺構１からは奈良時代の須恵器杯とともに和同開珎が（写真６）、埋納遺構２では平安時代の土師器小皿などが出土しています（写真７）。このほか、古墳周溝からは埴輪・須恵器などが出土し、その近くでは耳環のほか、管玉、小玉、紡錘車など、古墳の副葬品であったことを思わせる遺物が出土しています。

４．まとめ

藤原宮期・藤原宮造営期の遺構を確認　今回の発掘調査では、大極殿院内庭の東南部において藤原宮期の礫敷を広く確認し、広場の様子を知ることができました。このほか、宮造営期の遺構として、先行条坊の道路側溝にあたる南北溝・東西溝や、宮造営時に資材を運搬するために開削された運河などを検出しました。

藤原宮廃絶後の遺構群　奈良時代には大極殿院南門の跡地付近で、掘立柱東西棟建物が18m（60尺）を隔て、南北に２棟並ぶことが判明していましたが、今回の調査で建物１の規模が確定しました。埋納遺構１は奈良時代中頃のもので、敷地の地鎮にかかわるものとみられます。平安時代の掘立柱建物と埋納遺構もあり、宮廃絶後の土地利用がうかがえます。

宮域内における古墳の発見　藤原宮の造営時に破壊された古墳の周溝を発見しました。藤原宮の周辺では、朱雀大路や周辺の造成にともない改葬したとみられる日高山横穴や、日高山１号墳などがあり、藤原宮でも朝堂院地区では古墳周溝も見つかっています。今回の調査で発見した古墳と合わせ、宮造営以前の景観を考えるうえで重要な手がかりとなります。

写真５　古墳周溝の埴輪出土状況（北から）

写真６　埋納遺構１の地鎮具【奈良時代】

写真７　埋納遺構２の土師器出土状況【平安時代】

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 都城発掘調査部
〒634-0025 奈良県橿原市木之本町94-1　asuka@nabunken.go.jp
Edited by M.Morikawa・M.Kuriyama